

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要す

本年度の重点目標〈1：学力の向上 2：心の教育の充実 3：体力の向上 4：地域との連携〉

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果のコメント	総合評価	学校運営協議会委員評価コメント
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「できる・わかる」授業づくりと児童主体の授業づくりへの転換</li> <li>○ 自分の言葉で根拠を基に説明できる授業づくりへの挑戦</li> <li>○ 個の伸びを実感できる指導</li> <li>○ 基本的な学習態度の共通実践</li> <li>○ 個に応じた指導の工夫と家庭学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体的に昨年度より落ち着いて学習に取り組んでおり、学習内容が定着しつつある。個人差が大きいので、個に応じた個別最適な学習への更なる改善が必要である。</li> <li>○ 各職員が自己の課題を研究テーマにし、実践研究を行ってきたことで、児童主体の授業への転換ができてきた。</li> <li>○ 意見の共有、習熟、発表資料、学習記録等、タブレットを有効活用できてきた。</li> </ul>	3.2 昨年度 (3. 1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以前よりも落ち着いて授業に取り組めているように感じた。先生方の更なる根気強い教え、教え方の工夫をお願いしたい。</li> <li>○ 児童の発表が多く、児童主体でタイムマネジメントされた授業がなされている。昨年度より数値が上がったのも納得できる。</li> <li>○ タブレットが、学習の効率化や理解の促進に直結する形で活用されている。児童が自分のペースで課題に取り組める環境が整っている。</li> </ul>
心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権教育の視点に立った指導の充実</li> <li>○ 元気のよいあいさつの励行と基本的な生活習慣の定着</li> <li>○ 積極的な読書活動の推進</li> <li>○ 働くことの大切さや意義の理解と積極的なボランティア活動の推進</li> <li>○ 一人一人の教育的ニーズに応じた教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書の二極化が見られるため、家読や図書貸し出しの充実に努め、新たに読み聞かせを始める等の対策を講じた。</li> <li>○ あいさつは職員の指導だけでなく、運営委員会児童も呼びかけ等を行い、元気よくあいさつができるようになりつつある。</li> <li>○ 教育相談やアンケート（生活・人権）等を計画的に行って児童の悩みや困り感等の把握に努め、児童の気持ちを受け止め、必要な指導助言を行ってきた。</li> </ul>	3.1 昨年度 (3. 0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校では隙間時間に読書ができる環境づくりできている。家庭でも親子で一緒に本を読む機会を増やして欲しい。</li> <li>○ 子どもたちは、登下校時に地域の方やドライバーにしっかりあいさつをしている。</li> <li>○ 心のケアが必要な児童には、タブレットの活用もしてみてもどうか。対面での相談が難しい児童も、自分の気持ちを言葉にしやすいと思う。</li> <li>○ 異学年交流がしっかりなされ、社会性や協働性が育まれていると感じた。</li> </ul>
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体力向上プランの具現化及び体育の授業における運動量の確保</li> <li>○ 食育・睡眠・立腰 正しい姿勢の指導の徹底</li> <li>○ 昼休みの外遊びの奨励（二極化傾向への対応）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前に目標設定や種目のコツの確認等をし、体力テストに意欲的に取り組めるようにした。また、運動量の確保に努め、積極的にタブレットを活用したことで、運動の技能や学びが高まった。</li> <li>○ 栄養教諭と連携した食育の授業、弁当の日（年2回）、地産地消給食、減塩給食等を行い、食育指導の充実を図った。</li> <li>○ 学校保健委員会で講師を招聘し、保護者に「睡眠」の重要性について啓発した。</li> </ul>	3.2 昨年度 (3. 2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スマホやゲームの影響で、睡眠時間が乱れやすい状況にある。睡眠の大切さやSNSの陰の部分で啓発・指導していることは評価できる。</li> <li>○ 授業で途中から姿勢が崩れる児童がいた。今後も机・椅子の調整、体幹を鍛える運動、全員が参加できる運動機会の確保等を行うとよい。持久走の実施方法を一工夫して欲しい。</li> <li>○ 長期休業中に家庭・地域と連携し、体を動かす機会（イベント）をやってみてはどうか。運動不足の解消ができ、様々な人との交流もできる。</li> </ul>
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域と連携した教育活動の推進</li> <li>○ 幼保小連携の合同研修及び児童生徒の交流活動の推進</li> <li>○ 小中一貫教育の推進及び児童生徒の交流</li> <li>○ SDGsを意識した「えびの学」の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 関係機関（地域学校協働本部・地域ボランティア・まちづくり協議会・社会福祉協議会等）と連携して、学習活動の充実を図ることができた。</li> <li>○ 幼保小の合同研修会等で「知・徳・体」の到達目標を共有し、共通実践や交流会を実施した。また「幼保小だより」を配付し、保護者にも取組を啓発した。</li> <li>○ 小中合同研修会（年3回）で「学力向上・表現力」「あいさつ・整理整頓」の共通課題の改善に向け、取組ができた。</li> </ul>	3.3 昨年度 (3. 3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校の様子を様々な形で外部に発信しており、保護者は安心感があるのではないかと。</li> <li>○ 幼保小の連携は、子どもたち・保護者にとって安心できる取組であり、ぜひ今後も続けて欲しい。</li> <li>○ 地域の自然や文化、人との関わりをとおして、故郷を愛する心を育む学びが実現されている。このような取組を、今後もぜひ続けて欲しい。</li> <li>○ 多くの取組みをしていただき有難いが、先生方の負担が懸念される。今後も地域の力を借りながら、地域と一体となって子どもたちを育てて欲しい。</li> </ul>

